"チン見せ"が流行った治安の悪い小学校のお話

日本のどこかにあるとある小学校での信じがたい話。この学校では最近男子たちの間で、ある「遊び」が急速に広がっていた。

それは、女子の目の前に突然立ち塞がり、ズボンと下着を引き下げて、自分の「おちんちん」をぽろんと露出させて女子に見せるというものだった。

最初はクラスのヤンチャな男子たちが、度胸試しのつもりで始めた一発ギャグのような悪ノリだった。しかし、それが男子たちの間で変な競争心に火

をつけ、瞬く間に「どれだけ多くの女子にちんちんを見せられるか」「どれだけ女子を驚かせられるか」を競う、クラス内の隠れた流行になっていった。

大輝もその1人だった。
大輝は普段、足が速くてスポーツが得意な、クラスでも爽やかで通っている男子だった。みんなが廊下でちんこ出しているのを見て、「先生が来たらどうするんだよ」と苦笑いして見せるような立ち位置にいた。

しかし本心では違っていた。
彼は、女子がおちんちんを見た時の反応に、他の誰よりも強い関心と興奮を抱いていた。

「女子がちんちん見てる時の反応、マジで興奮する。俺のちんちんも女子に見せたい。」

大輝がターゲットに定めたのは、机の上のプリントを整理していた女子・葵だった。

「ねえ、葵」

声をかけられた葵が「え？」と大輝の顔を見上げた刹那、大輝は両手をズボンのウエストにかけ、下着ごと下へと一気に引き下げた。

大輝のおちんちんがぽろんと外に飛び出した。まだ成長途中のおちんちんだが、すでに興奮で少し勃起していて、先端の包皮が半分ほどめくれかかっていた。